

《水道事業会計》

1 経営・財務状況等について

① 経営状況において、平成23年度の当年度純利益は3946万4千円で、前年度繰越利益剰余金2261万8千円を加えた当年度未処分利益剰余金は6208万2千円となり、かつ経営資本営業利益率2.9%で収益も良い状態です。

② 財務状況において、流動性、自己資本構成比率等は、良好な状態です。企業償還元金対減価償却費比率は100%を超え122%ですが、問題となるほどではありません。全般的に年鑑・経営指標と比較すると良好な状態です。

③ 平成23年度も有収率90%を超え91.3%でしたが、次年度もさらに有収水量を多くし、漏水量を少なくするよう努力してください。

④ なお、平成10年度開始の石綿セメント管更新事業（配水管1万5549.3m布設替工事、事業費6億8751万9千円）は、平成23年度で終了しています。

2 固定資産台帳の整備について

固定資産台帳において、特に平成9年以降の固定資産除却における補助金の処置に一部未処置のものがあり、整備が必要です。

3 職員給与費の減と使用水量の向上

① 職員給与費及び臨時職員賃金の費用構成比は、職員1名減にもかかわらず、職員給与費の給水収益に占める割合は30.56%となり、経営指標14.94%より2倍で、従来と変わらず突出した比率です。

② 職員給与費の減は、将来においては、雇用方法・委託化等により可能と思えますので、当面使用水量を増加させ収益を上げる努力・工夫が重要です。そのためには、さらに安全でおいしい水を供給できるように、努力を惜しんではなりません。

一方、将来のために本町より少ない職員で水道事業している町も含めて研修してください。

4 安全な配水の保持

特異な事件が起き得る現状では、浄水池に毒物等が混入されないようにするとともに、混入したときにすばやく発見できるような処置が必要と思います。

5 水道管破損事故の防止

工事中の水道管破損事故が、平成22年度に3件、平成23年度に5件起き、増加しています。さらに業者への注意喚起が必要です。

今後も「安全かつおいしい水」に留意され、最大の効果をあげられるよう祈念します。

